新体操男子　採点規則Ｑ＆Ａ

Ｑ１　個人競技でＢ難度の宙返り→Ａ難度の転回→後転とびから後方伸身宙返り（ルールブックＰ41　6-1）をした場合、Ｐ41（6-6）のＢ→Ａ→Ｂ難度（6 人でＣ難度）宙返り＝Ｃ難度として扱われるのかどうか教えてください。

Ａ　Ｐ41（6-6）のＢ難度（6 人でＣ難度）の宙返りとは基礎難度Ｂの宙返りを指しています。（6-1）は基礎難度Ｂの連続技として扱うのでＣ難度にはなりません。同様にＢ→Ａ→伸身前とび 1 回ひねり前転を行った場合も宙返りではないので該当しません。

Ｑ２　禁止技となった 1 回を超える回転をともなった転を行った場合の扱いを教えてください。

Ａ　この技は 2018 年より選手の安全を考慮して禁止技となりました。禁止している以上行われることは前提としていませんが、もし行われた場合は構成が 0 点となります。ただし下記の例のように、実施上の問題でわずかに 1 回転を超えるような状況が出た場合は、救済処置としてその技の要素や難度を数えないという対応をしてください。

（例）　宙返り 1 / 2 ひねりから伸身前とび 1 回ひねり前転をしようとしたが、宙返り 1 / 2 ひねりがひねり不足となりその後の伸身前とび 1 回ひねり前転のひねりが 1 回転をわずかに超えてしまった。

Ｑ３　クラブのころがしについて、体を転がしたものでも認められるのか、またクラブのどの部分が 50ｃｍ以上転がればよいのか教えてください。

Ａ　ころがしは各手具の求められた長さを超えていれば体でも床でも認められます。またその長さについて、以前はクラブであれば 90 度転がせば認められるといった共通見解がありましたが、現在はクラブの形状が変わり 90 度に満たなくても 50ｃｍを超えるようになりました。したがってどの部分が転がったかではなく、審判席から見て転がった部分が 50ｃｍを超えているかどうかで判断することになります。

Q４　ユニフォームにつける所属マークはワッペンではなく刺繍やプリントではいけないのか教えてください。

A　所属マークは試合着と明確に区別できれば刺繍やプリントでも認められます。ただし色が区別できても試合着の柄と同じようなものである場合は審議の対象となることはあります。

Q５　個人競技で投げて前方宙返りをしながら手具を２回回した場合の難度を教えてください。

A　転回中の操作による難度の格上げは１ランクのみとなります。質問のように前方宙返りで２回回した場合、１ランク格上げでＣ難度になりますが、さらに投げ受けをしてもそれ以上の格上げはありません。

Q６　投げた手具をワンバウンドでキャッチした場合の難度と要素の取り方を教えてください。

A　投げた手具をワンバウンドでキャッチした場合、投げの要素は認められますが難度（追加の難度含む）の対象とはなりません。

Q７　側方倒立回転（側転）でＢ難度を取るために手具を２回回す技がありますが、どの時点から転回中の手具操作になるのか教えてください。

A　転回中の手具操作は原則としてその回転中であれば採用されます。この技は回転の前半で操作をすると転回中の操作なのか立位の操作なのかが非常に曖昧になります。この場合の立位から転回に切り替わったタイミングの判断は立っていられなくなった瞬間、すなわち「手がつく直前」となります。手が付く直前から回しているものを転回中の操作として扱ってください。ただし跳び側転のように空中局面を伴うものについては両足が離れた後に操作があれば問題がありません。

Ｑ８　ロープの受けで、片方の端は背面、もう片方は体の前面での受けを行った場合は、視野外の追加の難度として認められるのか教えてください。

Ａ　視野外の受けとして認められます。

Ｑ９　助走中に投げたリングをロンダー宙返りの宙返り途中での足で受けた場合はどのような難度になるのか教えてください。

Ａ　宙返りの着地をしていないので技が成立していないため C 難度にならないという考え方もありますが、着地後よりも明らかに難易度は高いので投げ受けの途中に B 難度の転回を実施したのと同等の扱いとし C 難度、さらに手以外のキャッチの追加の加点、独創性も加点してよいと思います。ただし四つん這いでの着地など、失敗し技が成立しなかった場合は B 難度の転回自体が存在しなかったことになりますから、手具を受けたとしても、投げ-ロンダード-受けの B 難度となります。

Ｑ10　新しい徒手ルールのＤ２の採点方法の目安がわかりません。

Ａ　2018 年版で発行された徒手ルールでは、構成を難度と要素の有無だけを見るＤ１と組み合わせや多様性を見るＤ２に分けて採点する方式になりました。Ｄ１は機械的に数える内容で比較的わかりやすいですが、Ｄ２は審判の主観に影響される部分が多くあり、難しいのではという声もいただいています。また大会ごとに差がついてしまうのではないかという心配もされています。

今までのルールで明確でなかった部分がこのＤ２に集まっているため、目安を明確にするにはもう少し時間がかかると思われます。ただ審判員の役割は序列をつけることです。Ｄ２の部分についてはその大会ごとに採点の基準が変わっても、大会の中での序列が違っていなければ問題はありません。難度以外の部分での徒手の組み合わせやその技術、多様性などについて、選手ごとの差を見極めて採点してください。